

橋下市政との市民のたたかい 広がる地域での共同に確信

市対連総会



発言する中路委員長

大阪市対策連絡会議は8月24日総会を行い、加盟各団体が「橋下市政半年間と私たちの運動」を報告し、学校選択制問題でのPTAや住吉市民病院の統廃合問題での連合振興町会、医師会などとの新たな共同が広がっていることを確信していることを確信に、「橋下『大阪維新の会』による福祉破壊、地域破壊、教育への介入を許さない運動を、市民要求をもとに、地域の広範な住民とともに進める」すべての階層への施策の後退を掲げる『市政改革プラン』の2013年度

予算における具体化を許さない」活動方針を確認しました。
学校選択制 反対広がる
大阪市教は、橋下市長の狙いが「保護者の選別にさらして自然に統廃合を促す手法としての学校選択制」であることを明らかにし、教育基本条例反対の闘いと並行して「学校選択制」反対が広がったことを指摘しました。各区の学校教育フォーラムやPTA協議会の研修会、市教委の熟議、幅広い市民参加の「市民熟議実行委員会」においても不安や疑問、「問題あり」、「実施は慎重に」の声が多数出されています。7月27日の閉会本会議では自民党が予算組み替え動議を提案し、みらい(民主系)と共産党が賛成、大阪市立学校活性化条例案に自民、みらい、共産が反対した

ように、地域での共同が進んだ結果、大阪市会においてもこれまで見られなかった変化が生まれており、共同の広がりに展望を見いだし、30人学級実現、学校統廃合反対、幼稚園民営化反対の要求を掲げ「競争と自己責任の教育」ではなく「連帯と共同の教育」実現を目指して頑張る決意を述べました。
新区長と交渉・懇談
公募区長の就任日8月1日の記者会見で橋下市長は、「大阪市260万人の住民を預かるこの自治体の中に新しい権力機構を複数(8、9)作り上げていくという、大変な作業をこれから公募区長にやってもらう」と述べました。大阪市要求を実現するためには区長に対する取り組みが重要になっています。

生活と健康を守る会は、生活保護を「労働の対価」と位置づけ、受給者に事実上ボランティアを強い暴論をホームページに掲載した鶴見区長に質問を提出し回答、交渉を求めています。
民主商工団体は新区長に対して「誰もかかえる国保料と生活実態にそった国保行政を求め交渉・懇談を行っています。年金者組合は、「赤バス」やバスの路線廃止の決定を

区長に委ねるとしており、地域の皆さんと一緒に対区交渉を強めたいと発言しました。
新日本婦人の会は、「つぶさないでクレオ!大阪の会」の取り組みを報告(9月にシンポジウムを開催)するとともに、橋下市長が8月21日、「従軍慰安婦」問題で「強制的な証拠はない」などと述べた抗議申し入れ、宣伝行動について報告しました。

幼稚園民営化反対 30人学級実現 市会陳情

30人学級実現・学校統廃合やめて・幼稚園民営化やめてを要求して、10団体の呼びかけで大阪市の議長宛の陳情署名に取り組んでいます。
大阪市の貧困は深刻です。子どもたちゆきとどいた教育を保障するため、少

人数学級を実現することは大阪市の重要課題です。学級規模が30人になると、統廃合の対象校は減ります。幼児教育で大切な役割を果たしてきた大阪市立幼稚園を民営化するという動きには多くの反対の声が上がっています。

ます。保育の質を保ち、子どもの保育・教育を受ける権利を市町村が責任を負うためにも公立の幼稚園をなくしてはいけません。
保育運動団体や個人が民営化は大問題と大阪市に申し入れました。署名が今、たくさん集められて

います。学校PTAや保育所、民間の職場からも届けられました。大阪市の職場からもたくさん届いています。大阪市の立幼稚園を守りたいと職場や知人に声をかけ、175筆を集めた組合員もいます。是非身近な人に声をかけてください。署名を集め、市議会に子どもと市民の声を届けましょう。10月初めまで集めています。

活動制限許さず 労働条件要求書提出

大阪市は大阪市労働関係に関する条例を8月に施行し、交渉制限や収支報告書の提出などによる不当な支配介入を行うおとししています。
大阪市教は組合活動の制限を許さず、切実な労働条件改善を求め、本部要求書を各専門部要求書を8月3日に提出しま

います。今後の交渉での実現を求めます。大阪市の職員の組合も8日要求書を提出しました。本部要求書では、時間外勤務時間等の調査を引き続き行い、長時間勤務者の負担軽減措置を安全

「大阪『教育条例』で学校・教育はどうなる?」には6500人が参加で満杯。大阪で何が起きているのか、橋下市長の暴走を止めるためには何をすべきか、注目の教育フォーラムとなりました。

問題提起を名古屋大の中嶋哲彦さんが行い、元大阪市教育委員長の池田知隆さん、教員、保護者、学生が報告し、会場から以下の発言がありました。

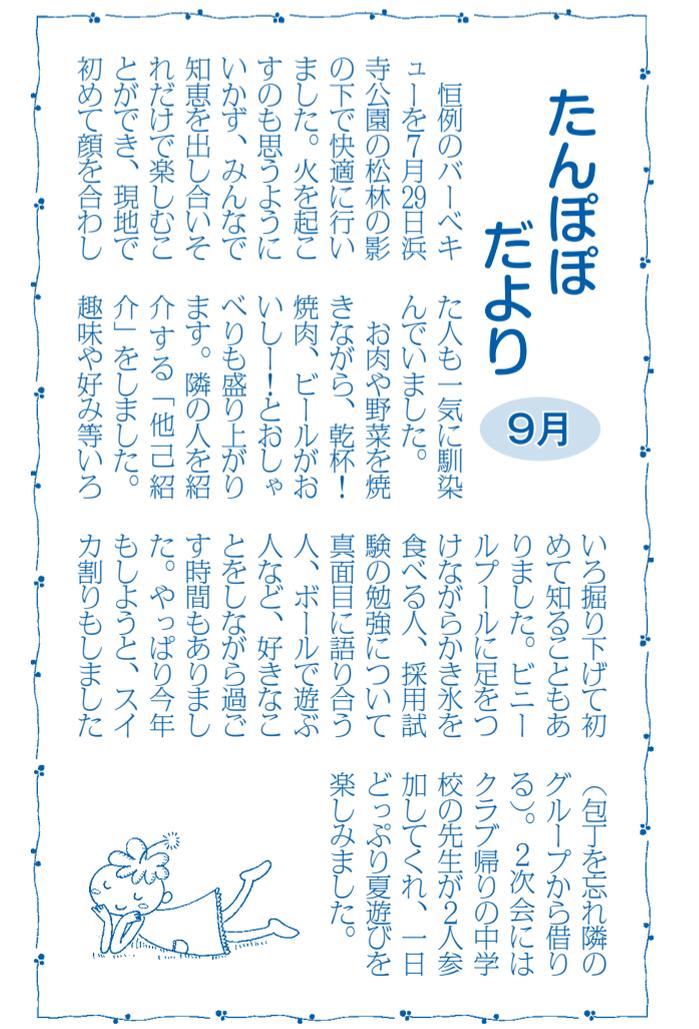
たんぽぽ だより 9月

恒例のバーベキューを7月29日浜寺公園の松林の影の下で快適に行いました。火を起すのも思うようにいかず、みんなで知恵を出し合いそれだけで楽しむことができ、現地で初めて顔を合わし

た人も一気に馴染んでいました。お肉や野菜を焼きたながら、乾杯!焼肉、ビールがおいしい!とおしゃべりも盛り上がりです。隣の人を紹介する「他己紹介」をしました。趣味や好み等いろ

いる掘り下げて初めて知ることもありました。ビンールプールに足をつけながらかき氷を食べる人、採用試験の勉強について真面目に語り合う人、ボールで遊ぶ人など、好きなことをしながら過ごす時間もありません。やっぱり今年もしよう、スイカ割りもしました。

(包丁を忘れ隣のグループから借りました。2次会にはクラブ帰りの中学校の先生が2人参加してくれ、一日どっぷり夏遊びを楽しみました。



大阪市教は夏季学習交流集会を8月24

貧困がら子どもを守れ 大阪市教夏季学習交流集会

日行いました。全大阪生活と健康を守る会連合会の大口耕吉郎さんが「日本の貧困と生活保護」について講演を行い、大阪市の教育困難の原因である貧困問題を学習しました。

貧困ライン(可処分所得11.2万円以下)が日本は16%、高齢者世帯22%、母子世帯66%となり貧困が広がっています。しかし、保護制度の対象となる人の2割程度にしか利用されておらず、膨大な貧困層が放置されています。日本の保護受給率は人口比

1・6%で、ドイツ9・7%、フランス5・7%に比べ低くなっています。
自己責任論ではなく、満額でも月6万6千円の国民年金や働いても貧困から抜け出せない最低賃金を改善し、連帯してたたかうことの重要性を指摘しました。

集会では、「職員の政治的行為の制限に関する条例」に対する取り組みも交



大阪市は大阪市労働関係に関する条例

意思統一しました。

「大阪『教育条例』で学校・教育はどうなる?」には6500人が参加で満杯。大阪で何が起きているのか、橋下市長の暴走を止めるためには何をすべきか、注目の教育フォーラムとなりました。

問題提起を名古屋大の中嶋哲彦さんが行い、元大阪市教育委員長の池田知隆さん、教員、保護者、学生が報告し、会場から以下の発言がありました。

大阪の教育はどうなる

橋下市長の頭の中には憲法はない。彼が今、次々とやっているのは委縮効果を狙っているものであり、危機感・苛立ちの表れと見るべきではないか。「橋下行政」のなかでは「いじめ」が広がっているのは必至である。今こそ、教育自治を下から作り上げて「競争と自己責任の教育」ではなく、「連帯と共同の教育」を実現していくことが必要である。

配慮義務として行うこと、NO残業デー実施、学級規模が大きいことが諸外国に比べ日本の長時間労働の原因となっていることから、少人数学級を実現して業務を軽減すること、などを求めました。

「競争と自己責任の教育」ではなく、「連帯と共同の教育」を実現していくことが必要である。